

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393100074		
法人名	学校法人 さくら学園		
事業所名	グループホームじけい(朝日)		
所在地	安城市西別所町中新田20		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年5月1日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

神社の掃除(月1回)や、町内会の行事に積極的に参加し交流をしている。家族を交えたホーム内の大掃除(月1回)で、家族と一緒に食事をし、交流をしている。鍵の無い開かれた施設 個人個人の生活習慣、気持ちを大切に介護 家族、地域とのつながりを実感できる環境づくり。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人サークル・福寿草		
所在地	名古屋市熱田区三本松町13番地19号		
訪問調査日	平成25年3月18日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、学校法人が運営するグループホームであるが、職員は、開設前に県内のグループホームに見学、研修に出掛け、各ホームの良い所を参考に運営しており、他法人のグループホームと合同で行事を行う等の交流も行っている。また、地域の住民を対象に、認知症やグループホームについて理解を深めてもらえるようイベントを開催しており、地域との関係も良好である。利用者は、地域の祭りや清掃活動に参加したり、地域で開催された踊りの発表会に参加する事で、地域の一員として生活している。また、毎月末には、大掃除をしており、家族も参加して居室の掃除に取り組み、昼食を利用者、家族、職員でテーブルを囲み交流している。ホーム隣には法人が運営する保育園・幼稚園があり、行事だけでなく日常的に交流しており、ホームに園児が訪問するのを利用者は楽しみにしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>《共に生きる》という理念のもと、町内の掃除、お参り、行事に参加し、地域の方々との交流を深めて《入居者が地域で当たり前暮らす事》を実践している。</p> <p>グループホームじけいの理念を共有し念頭に置いてスタッフが仕事をしている。</p> <p>地域の方と連絡を密にし、情報を得、地域に溶け込む努力をしている。</p> <p>月1回開催される喫茶に地域の方をお誘いしている。</p> <p>じけいが掲げる理念《慈愛・誠心・共生》が、目に見えて意識できるように、理念を習字で書いてホーム内に掲げている</p>	<p>ホームの理念は、ホーム立ち上げ時に職員で考えたものであり、ホーム内に掲げており、職員は常に確認する事ができる。管理者、職員は、理念の内容をふまえながら、利用者が地域住民と交流しながら生活していけるように努めている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>神社の月一回の掃除 お参り</p> <p>地域のお祭り</p> <p>地域の方と一緒に踊りの発表会に出演</p> <p>踊りの発表会の練習</p> <p>地域の作品展に作品出品</p> <p>夏のラジオ体操に参加</p> <p>地域のスーパーに買い物に行く</p> <p>地域の喫茶店を招いて月一回喫茶店を開催、その喫茶店に地域の方をご招待している</p> <p>畑で採れた野菜などを持って来て下さる地域の方もいる</p> <p>入居者さんの行きつけの喫茶店に出掛けて行きコーヒーを飲む</p>	<p>ホームでは、開設時から地域住民を対象に認知症の理解を深めてもらう為に、講習会等を開催している。また、ホームは、利用者もホーム近くの神社の清掃活動や祭りに参加する事で、地域の一員として生活できるように取り組んでいる。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>ホームで開催する喫茶店に地域の方をご招待し、認知症の方との関わりの機会を作っている</p> <p>地域の方を招いて《地域でみんなできさえ愛～ここから始まる福祉の輪～》というイベントを開催、認知症の対応の仕方を劇で伝えたり、幼稚園児にお年寄りとの関わり方を伝えた</p> <p>地域の学生さんをボランティアで受け入れ、認知症の方の支援の仕方を伝えた</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月14日に第一回地域運営推進会議を開催します	今年度開催した会議では、利用者の様子やホーム行事について報告しており、会議の内容は職員で共有している。管理者は、他のホームの運営推進会議に参加し、お互いのホームの取り組みについて情報交換している。	今年度は1回の開催であるが、管理者は、来年度より他ホームの運営推進会議を参考にしながら、2か月毎の開催を目指している。会議で出された意見を運営に活かされていく事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	安城市のグループホーム部会に参加し、困った事を相談している	管理者は、ホーム運営上で不明な点があれば、市担当者に相談し運営に反映したり、市のグループホーム部会に参加する事で情報を得ている。また、市主催で行われている「10年後に届く手紙」に利用者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	《身体拘束ゼロの手引き》の重要ポイントをコピーし全スタッフに配布、身体拘束が行われない様にスタッフの意識を高めている 転倒リスクが高い入居者さんの対応に、センサーを使用することで、安全確保に努めている	職員は、ホームで行われる勉強会で身体拘束防止に対する意識を深めている。日中、ホーム玄関や窓の施錠をしておらず自由に出入りできる状態であり、利用者が一人で出て行こうとすれば職員が付き添い外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者施設に勤める方(和田行夫さん)の講演会をスタッフ全員で聴講し虐待について学んだ、またそれに基づき、虐待の無いケアを確認しながら実施している 入浴時などに身体チェックを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	安城市のケアマネジャーの集まりで開催された《権利擁護》について学ぶ勉強会に参加した 自己決定が困難な入居者さんに対して、必ず身元引受人に相談し、判断し決定している 身寄りのない方は、NPO法人きずなの会を利用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし、不安や疑問についても、その都度伺い、説明し、納得をして頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会簿に、ご意見をお伺いするための用紙、ご意見箱を設けてあり、お気づきの点などご記入頂き、想いをお聞き出来るようにしている 月一回の大掃除には、ご家族と一緒にスタッフもテーブルに付く様に配置し、積極的に話し、話しやすい関係づくりに努めている 面会時や電話で、ご家族にご意見ご要望をお聞きする機会を作っている 定期的にご家族にお手紙をだしたり、ご家族も参加する行事等でご意見をうかがい反映している 入居前にお聞きしたご希望を反映し、ケアプランに取り入れたり、運営に反映したりした(習字クラブ)	管理者、職員は、家族の面会時には必ず声を掛け意見を伺ったり、電話で利用者の様子を伝えている。ホームでは、月に1度、家族参加で大掃除と親睦食事会を開き、職員は家族と情報交換している。また、毎月、ホーム便りを発行し利用者の様子や行事報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や、日々の申し送り、ミーティングにて意見を聞く機会を設けている	管理者は、日頃から職員に声を掛け意見を聞いたり、相談に応じている。毎月の職員会議では、会議のテーマを職員で決めており、ケア内容や業務について話し合いを行っている。また、職員会議には、理事長も参加する事もあり、職員意見の反映に努めている。	管理者は、来年度より、全職員を対象に自己評価を用いながら個別の面談を考えている。このような取り組みを通じて、ホーム運営に反映される事に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	家庭と仕事の両立が出来るよう、勤務体制や条件を個別で適用し、女性にも優しい環境づくりが行われている スタッフが分からない事が有れば、管理者、リーダーに相談し、返答がもらえるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回看護師による勉強会を実施している 介護の専門学校教師による勉強会の実施 研修で学んで来た事を月一回の会議で発表し、勉強会をしている 研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングして行く事を進めるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の行事に参加させてもらった 他施設管理者との交流会に参加した ホーム内で問題などあった時は、他ホームの対応の仕方など相談させて頂き参考にしている 他ホームのイベントに参加 他施設の見学者なども歓迎して迎えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居者に会い話を聞き、安心して頂く様に努めている 入居前に見学や、体験をして頂いている 情報共有シートを活用し、スタッフ一丸となって支援できるように努めている 入居者に話しかけ、困っていること、不安な事に耳を傾けながら安心した暮らしが出来るよう変化などに注意して支援している 1対1で関われる時間がある 入居前の事前情報アセスメントの把握に努めている ご家族と連携も取りながら、今まで過ごしてきた馴染みの私物や、お気に入りの色のカーテンなどホームに持ち込んで頂き、過ごしやすい環境づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時にお困りの事、不安な事をお聞きし、記録し、ケアプランに反映させるようにしている 特に入居間もない頃は、細目に入居者の生活状況をご連絡し、ご相談し、ご家族の思いが入居者さんへの介護に反映できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態、ご家族の要望に合わせて、必要であれば他施設もご紹介している(実際にじけいからの紹介で特養に入所されたケースもある)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として接し、様々な事を教えて頂き、常に感謝の気持ちを言葉にして共に生きている 日常生活の作業を共同で行っている 食事と一緒に食べている 支えあう関係を築いている ともにゆっくり過ごせる時間を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の時は家族も一緒に参加して頂き、また、状態の変化を細目に報告している 一月に一回の大掃除+親睦食事は、ご家族も、入居者も、スタッフも、一緒に掃除し、一緒にご飯を食べる 本人と家族が会えない時でも交流が持てる様交換ノート、電話、手紙、メモなどを活用している 本人のお誕生日にはご家族もお呼びして、出来る限りご参加いただいている 忘年会ではご家族にもカラオケなどご披露頂いたりもした ご家族が本人のお部屋に泊まる事も可能で、実際泊まれた事もある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居する前に通っていた馴染みの店、喫茶店に行ったり、よく買い物に行ったスーパーに行ったりしている 本人の知人の方が気軽に遊びに来れる雰囲気作りや行事、また、ご希望があれば行きたい場所に出掛けている(墓参りなど) 地域の行事には積極的に参加している 友人などが面会に見える事もある	ホームには、利用者の友人、知人が訪ねて来る事もあり、居室でお茶を飲みながら過ごされている。家族、職員支援で馴染みのスーパーや喫茶店、床屋へ出掛けている。また、自宅へ日帰りや泊まりで帰られる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで食事をし、みんなで後片付け、掃除もしている 必要な所には職員が入り入居者同士が関われるようにしている 入居者同士の性格や相性を把握し対応している 相性なども考え、外出、食事のテーブル配置など工夫している 親くなった分トラブルも起きて来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、関係を大切に して、必要な支援を行っている 入院し退去された方へ、他入居者や、スタッ フから寄せ書きを送った 入院、退去された方が、退院後困らない様 に、介護サービスの説明、ご紹介もした 新しい生活の場でも、今までの生活が継続 できるように生活状況や、支援内容などの 情報提供を行った		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	情報共有シート、24Hシートを活用し、入居者一 人一人の発言や、会話、表情や行動にも目を向 け、記録し、思いや意向を把握するように努めて いる 入居時に好きな事、嗜好を聞いている 食事、入浴、睡眠など本人のペースを大切にす ている ご本人の想いが把握できない時は、ご家族に相 談し検討している スタッフ会議で、多面的に本人の想いを汲み取る ようにスタッフ全員で意見交換をしている 本人のやりたい事(編み物、買い物、絵画、習字 など)が出来るようにサポートしている	利用開始前の面接で、管理者、職員は、利 用者の生活習慣や生き立ち、身体状況をア セスメントし、それらを全職員で情報を共有す るよう努めている。また職員は、毎日の関 わりの中から、利用者の思いを把握するよう 心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	事前調査時、前施設での様子や、ご家庭で の様子をお聞きしたり、本人と話をし、情報 を深める努力をしている 入居時に生活歴を確認している 入居後も生活の中から暮らし方を把握する ようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	入居時に一日の過ごし方を聞いている 24Hシートを活用し、日々の生活を記録し、 必要に応じて心身状態など分かりやすく記 録している 申し送り、ミーティングを通して入居者の 日々の変化を職員間で意見交換したりし把 握に努めている 担当スタッフが、ケアの7つのポイント、注 意点をまとめ、記入し、一月に一回更新する ようにしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	最低3ヶ月毎、また、介護保険更新時、状態変化時に会議を開催し、ケアプランのモニタリング、見直しを行っている 本人、家族に希望を聞き、職員間も情報交換、話し合いをし、その状態に適したプランを立案している スタッフ会議や、ミーティングなどで意見交換される情報も活用しケアプランに反映している 医師、看護師からの意見も聞き、プラン作成に生かしている 沢山の情報が収集出来るように、日々の記録を細かく取り、ご家族とのコミュニケーションも密にしている	介護計画は、家族の意見やかかりつけ医の意見を聞き、職員会議で計画作成担当者を中心に職員で話し合いを通じ作成されている。基本は3か月で見直し作成しているが、認定更新時や利用者の状態変化時には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24Hシートで個別記録を残し、情報を共有しながら実践に生かしている スタッフ会議、ミーティングでスタッフの意見交換を行い、気づき、工夫を記録し、実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関わりの中で状態や要望の把握に努め、適切なケアの提供に努めている 通院や入院時の対応なども、柔軟に対応している 親族の結婚式時、結婚式場への送迎や、親族の葬式時式場への送迎も行った 子供が好きな入居者さんのニーズに対応し、幼稚園、保育園児との関わりのお機会を作ったり、部屋の前でお花を育てたい方のニーズに対応し、花壇を作ったり、お墓参りに行きたい方のニーズに合わせてお墓参りの付き添いをしたりした 個別性のあるケアプランの立案をしている ご家族と一緒に過ごす時間が増やせるように、ニーズに合わせて、ご家族の宿泊も可とし、お部屋の提供、必要な食事の準備なども行っている ニーズに合わせて柔軟にスタッフの動きを工夫し、朝早くのラジオ体操への参加や、夜遅くのお祭りや花火大会への参加もサポートできるようにした		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事や、清掃に参加したり、作品を出展したり、踊りを発表するなど、暮らしの中で張合いが持て、楽しめるように支援している 町内の学校にボランティアを依頼し、行事時など学生さんにご協力頂いている ご家族のお力もお借りし、行事、掃除など行っている 入居者さんのエスケープ時の対応に、町内放送を活用させて頂いたり、町内の方、警察の方にご協力頂くなどした 安城市で行われた《10年後の手紙》を活用し手紙を出した		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族が選択されている、協力医療機関以外にかかられている方の受診は、ご家族を通じ、日ごろの状態などを医師へ情報提供し、ご相談するようにしている ご本人の症状に合わせて、適切な医療機関が選択できるように、協力医療機関の医師にも相談し、助言頂きながら、ご本人、ご家族に医療機関を選択して頂けるようにしている	利用者の状態変化時には、職員はホーム看護師に相談し指示を得ている。ホーム協力医による月1回の往診と24時間連携体制があり、利用者の健康管理をしている。また、入居前からのかかりつけ医に継続する事も可能であり、必要に応じて職員支援での受診もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パート看護師がおり、健康状態を把握している、看護師が休みの日も介護職員が状態の変化を記録し連携を取っている 月1回看護師による勉強会を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院へ度々面会に行き、回復状況を、病院の看護師やPT、本人の様子から確認したりした 退院時の病状説明にもご家族と一緒に立ち会いをした 安城市にある、入院可能な大型病院2か所（安城更生病院・八千代病院）の地域連携室スタッフの勉強会に出席し、また、医療と福祉のネットワークという勉強会にも出席し、より良い関係が築けるように努力している 入院時は、入院席の病院へ生活状況などの情報提供をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、当ホームで対応可能な行為の説明を行い、その上で①終末期はどこで迎えた いか？②緊急時の対応として、延命治療を望むか？など、ご家族を通してご本人とご家族の意思を確認し、記録に残している	ホームでは、本人、家族の希望があれば看取りをしていく方針であり、入居時に家族に説明しながら意思を確認している。現在、看取りの対応をした経験はない。	今後、家族の期待に応えられるよう、職員は、看取り時の対応方法を研修を通して知識と技術を身に付ける事が必要と思われる。また、運営推進会議や家族会を通して、家族が看取りについて考えるような機会をつくる事に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議にて、介護の専門学校の教員による勉強会を行い、緊急時の対応、心マッサージ、AEDの使い方、吸引の仕方などを学んだ 看護師・理学療法士による勉強会を実施している 緊急時救急車を呼んだ時の書類などの準備がしてある まだ不安があるので、学ぶ機会を増やしたい	/	/
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	協力業者(セコム)さんに来て頂き、災害時の避難方法を学ぶ勉強会、訓練を行った 避難場所もスタッフに周知されている	今年度、災害訓練を1回行っており、職員に通報装置の使用方法を周知し、実際に避難する訓練を行っている。運営推進会議の場でも、災害時の対応については話しており、今後、地域の訓練に参加していく予定である。また、備蓄品が用意されている。	今後、全職員が利用者を安全に避難させられる方法を身に付けられるよう、訓練を複数回開催する事が必要である。また、地域との協力体制を築かれる事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉や声掛けに注意している、排泄時、入浴時のプライバシーの尊重をしている 大きな声で言われては恥ずかしい事、皆に見られては嫌な事をわきまえて支援している 掲示物、写真などにはご家族を通して同意書を取り、それに従いプライバシーの保護を行っている	ホームでは、職員の接遇マナーについて学ぶ機会を設けており、職員は、利用者を尊重した挨拶や声掛けを大切にしている。また、排泄介助や入浴介助は、利用者の希望に合わせて同性介助にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんが食べたい物をイメージし、選択しやすい様に、写真付きメニュー表を作成し、自己決定がしやすいように工夫している 分かりやすい言葉で、ゆっくりと、また決定事項ではなく質問形式で話しかけるように努力している 入浴が好きではない入居者さんに関して、本人が入りたい日を自己決定し、予定表を自らが作るようにした 服を選んだり、些細な事でも出来る範囲で本人の意思に基づいて支援する事に心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、希望に沿って支援できるようにしているが、スタッフの都合で待つ頂く事もある 前もってやる事を決めず、その日の入居者さんの状況に応じて1日のやりたい事を決めて行ったりしている 食事の時間も、幅を持たせ、その方のペースを尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が服を選び、また、化粧をされる方も見える 馴染みの美容院へ行きたい方はご家族の協力で馴染みの美容院へ行く ホームに訪問する美容師さんは、本人さんのしたい髪型を聞いてカットしてくれている 本人では難しい部分の身だしなみはスタッフが手助けして身なりを綺麗に整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は馴染みのあるものをそれぞれ用意していただいている 準備や片付けは、その方に合わせて出来る事をしていただいている 入居者さんが食べたい物をイメージし、選択しやすい様に、写真付きメニュー表を作成し、またそこには、入居者さんが以前から好きだったもの、思い出の食べ物が分かるように工夫してある 買い物は入居者さんと一緒に出掛け、食材を選んでいる 季節に合わせたメニューをお出するようになっている スタッフも一緒に会話しながら食事をする盛り付けも、その方の状態に合わせて、食べやすい様に工夫している	ホームでは、写真を使ったメニュー表で、利用者が食べたい物をイメージし、その日の献立を決めている。利用者は、食材の買い物、調理、片付けを職員支援で行っている。また、職員は毎食利用者と食卓を囲み、利用者が楽しく食事して頂けるよう努めている。	来年度より、ホームの食事について、法人の管理栄養士に確認してもらい助言を得る予定である。今後も、栄養ある美味しい食事を提供していく事に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事、水分量を確認している 水分を好まれない方には、その方の好みの物や、時間を見計らって提供している 食事量が少ない方にはエンシュアを使用している 食事の栄養バランスを考えて、一か月で主となる食材を振り分け、献立をたてている 持病、体調、体力、運動量も考慮し、食事の量も考えている 食事形態も、その方に合わせて変えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けや、見守り、必要な方には介助を行っている、義歯の方は夕食後に消毒をしている 看護師が定期的に口腔内をチェックしている 入居者さんの中に、《朝と夜だけでいい》と昼は拒否する方も見えるので、無理強いはしない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をとり、排尿パターンなどの把握に努め、必要な方には声掛けをし、トイレへの誘導を促している ただ、実際なかなか排尿パターンは把握出来ていない 今までにずっと紙パンツを使用してみえた方が、布パンツ+パットに変更出来た方もある必要に応じて医師と相談し、薬で失禁を減らせるようにしている 個々のその時々状態に合わせた紙パンツ、パットを検討し使用している 単に定時の誘導ではなく、なるべく本人の尿意を尊重し、残存能力を活かすようにしている 現在全員がトイレで排泄をしている	ホームでは、排泄が自立している方もおり、支援が必要な方に対してチェック表を使い、排泄パターンの把握に努め、トイレへ案内している。また、オムツやパットの使用については、家族と相談しながら職員間で検討し使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやヤクルトなどの乳酸菌、繊維のある食材を食事に取り入れるようにしている 運動や、お腹を暖めるなどの工夫をしている ラジオ体操や、運動以外でも生活の中で散歩や、歩いての買い物、カーテンの開閉、お手伝いなどで体を動かす工夫をしている 看護師による便秘の勉強会も実施した必要に応じ下剤を飲んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい日を自身で予定を立てて入浴される方や、夜寝る前に入浴したい方など、個々に合わせた入浴支援をしている 2種類のお風呂を、個々の好みに合わせてお誘いしている 楽しんでいるか？不明な方もある 個々に合わせて支援の方法、声掛けの工夫をしている 音楽が好きな方には、音楽を流し、気持ちよく入浴して頂く 脱衣場の暖房、床暖も必要に応じて使用し、環境を整えている	ホームでの入浴は基本1日おきだが、毎日の入浴希望にも応じる体制である。ホームには、一般的な浴槽と大きな浴槽があり、利用者の好みで選ぶ事できる。また、浴室から庭が見える事で温泉気分を味わえたり、仲の良い利用者同士で入浴を楽しむ方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が今まで使っていた布団、枕を持って来て頂き、安心して休んで頂く環境づくりの工夫をしている 個々の好みに合わせ、照明や室温の調節をし安眠を促す 日中の活動を増やし、夜眠れるように支援する 昼間でも体調や状況に合わせて休息の時間を作る		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報を見れるようにしている。薬に変更があった時は理由と、内容が伝わるように申し送りを行っている。 体調に変化があった場合は記録し、状況によって管理者・看護師に報告している 薬チェック表を作り誤薬に注意している、また、服薬準備は必ずスタッフ2人でダブルチェックし、また、服薬介助もスタッフ2人で確認し、最終確認でまた別のスタッフが確認するように念には念を入れている。 薬によって食べてはいけないものなど分かりやすく注意書きを記入し、周知できるようにしている 間違いが起こらないように、入居者一人一人の薬ケースがある お薬の説明書が見れるようになっており、副作用なども周知できる様になっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、また、日々の関わりの中で本人、またはご家族から知り得た情報をスタッフ間で共有し、場合によってはケアプランに反映し、出来る事を活かし張りのある生活になるように、楽しみにつながるよう考え、個別の支援に活かすようにしている 天気の良い日は、外に散歩に出かけるなど、気分転換に心掛けている 編み物、塗り絵、迷路、絵手紙教室、習字クラブ、花壇のお世話、落ち葉ひろい、歌など、バリエーション豊かな楽しみごとを作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>一人一人の希望に添えるように、思いに耳を傾け、場合によってはご家族や、地域のボランティアさんにご協力頂きながら、思いを叶える努力をしている</p> <p>季節に応じた沢山の外出支援を実施してきた</p> <p>日常的な、買い物、ゴミ捨て、散歩、などや、大きな行事、日帰り旅行なども行い、外出に取り組んだ</p>	<p>利用者は、日常的に近所を散歩したり、スーパーへ買い物に出掛けている。ホームでは、個別での外出支援にも取り組んでおり、希望に合わせた買い物や喫茶店等へ出掛けている。また、花見やぶどう狩り等、季節を感じる外出にも取り組んでいる。</p>	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される入居者さんは、ご家族とご相談した上で、本人がお金を持ってみえる方もある 買い物時、出来る限り入居者さんにお金のお支払いをしてもらう 好きな宝くじを買ったりする方もみえる 駄菓子屋で、入居者自身でお金を計算し、買い物をする取り組みも実施した		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話が出来るようにしている、携帯電話を持ってみえる方が朝日に1名、夕日に3名みえて、お電話する事もある、またご家族と交換日記をされる方もみえる 月一回ご家族へお送りするお手紙に、入居者さんが書いたお手紙を入れる事もある ホームの取り組みで、10年後に届くお手紙を、それぞれのご家族に向けて書いた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに季節を感じられるような入居者さんが作った作品の展示をしたり、花を飾ったりしている 温度・湿度計を取り付け、快適な温度湿度を保っている 各居室、トイレ、お風呂には表札があり、入居者さんが迷わないように工夫している。また、一人一人の居室の様相も異なり、視覚から自身の居場所を認識できるように工夫している 扉や天窓を開けて風を通し換気に心掛け、清掃にも力を入れている 汚れやすいトイレにはマットを敷く工夫をしている 食事中はテレビではなく音楽を流し、心地よい雰囲気づくりに工夫している 庭には気が沢山植えてあり、四季折々の景色を見せてくれる、お風呂からもみえる	ホームでは、居室、トイレ、浴室に表札を付けたり、壁紙を変える事で、利用者が場所を把握しやすくなるよう配慮されている。ホームの庭には、子供の遊具が配置されており、隣接する保育園、幼稚園と利用者が交流する事ができる。また、中庭では、天気の良い日は、日向ぼっこしたり、食事する事ができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースや、ソファを配置し、くつろげる空間づくりをしている、廊下にもベンチを作り、思い思いに過ごせるようにしている お部屋で一人で過ごしたり、お部屋に他入居者をお呼びし過ごしたり、皆とリビングで過ごしたり、その日の気分に合わせて過ごし方は各々様々である 共用の空間の中に、一人で過ごせるスペースも用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具、カーテン、寝具は、すべてご本人、ご家族にご用意頂いている、好きなカーテンの色、使い慣れた家具に囲まれ過ごす事が出来ている 居室に写真を飾るスペースがあり、ご家族との思い出の写真などを飾る方もある 居室に仏壇や、テレビ、アルバムなどを持ち込まれている方もある 今まで布団を使っていた方は布団を、ベッドを使って見えた方はベッドを持ち込まれ生活されている	ホームでは、居室に馴染みの物を持ち込んで頂く事で、利用者が落ち着いて過ごせる空間になるように努めている。また、畳とフローリングを組み合わせることで、一人ひとりの生活習慣に合わせて、ベッドを使用したり、布団を敷いて休まれる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口、トイレ、お風呂には本人の表札がある 一人一人の身体機能に合わせてベッドの方、布団の方もみえる 布団からの立ち上がり出来る方は、出来るだけ布団をお願いし、日常生活の中の動きでも、リハビリにつながると考え、その事を入居時ご家族にも説明をしている 時計や、トイレの張り紙なども、出来るだけ入居者に入りやすい位置を考えて設置している 安全に生活できるように、ものにつかまって歩けるようにしているペーパータオルや、地震のタオルを置く棚を、あえて高い位置に設置し、使用する時に背筋が伸びる工夫をしている、生活のリハビリが出来るように考えている さまざまな種類の椅子があり、入居者の状態に応じた物を使用して頂いている、中にはあえて背もたれの無い椅子を用意し、自然に腹筋を使えるように工夫している物もある 廊下の途中にベンチがあるので、歩行が不安定な方でも休みながら歩く事が出来る 日めくりカレンダーがある		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームじけい

## 目標達成計画

作成日: 平成 25年 4月 25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	今年度は運営推進会議を1回しか行えなかった	来年度は2ヶ月に一回の開催を目指す  会議で出した意見を運営に活かしていく	2ヶ月に一回開催をして行く  会議で出した意見は、スタッフ会議で意見共有し、対策が必要な事に関しては、対策を立て、次回の運営推進会議で回答を返す事を目指す	12ヶ月
2		看取りに関する知識を身に付ける  運営推進会議を通して家族が看取りについて考える機会を作る	看取りに関する知識と技術を身に付ける  運営推進会議を通して家族が看取りについて考える機会を作る	スタッフ会議で《看取り》の勉強会を開催する  運営推進会議で《看取りについて考える》機会を作る	6ヶ月
3		災害時を想定した避難訓練が必要  災害時の地域との協力体制が必要	災害を想定した避難訓練を複数回実施し身に付ける  地域と合同での避難訓練が実施出来るようにする	避難訓練を年2回は実施する  地域と合同での訓練が出来る様に、運営推進会議で、町内会長に相談する	12ヶ月
4		今後も栄養があり、美味しい食事が提供できるようにする事が必要	今後も栄養があり、美味しい食事が提供できる	献立を同法人の栄養士に相談出来るようにする  食事の勉強会を実施する	6ヶ月
5		スタッフの意見が運営に反映される様に、スタッフの意見を聴き取りの機会が必要	スタッフの意見を聞き、運営に反映していく	管理者、スタッフとの書面を使った意見交換(自己チェック表)を実施し、意見の聞き取りを行い、ミーティングや、スタッフ会議で取り上げ、運営に活かしていく	6ヶ月